

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	住関連専門店（従業員）	・ますます冷え込んでいくため、高単価の秋冬商材の需要が高まると予想される。また、来客数が増加しマットレスなどの高単価商材の引き合いが多くなることを期待している。
	○	商店街（代表者）	・気候が良くなるため、年間で最も金の動きがあると考えている。そのため、客の動きは活発になり、購買活動は上昇していく。
	○	商店街（代表者）	・来月からは喪中はがきや年賀状が入ってくるため、製造業が上昇すると予想される。
	○	商店街（代表者）	・1～2か月前の来客数と客単価の上昇傾向を踏まえると、2～3か月先の景気も徐々に良くなっていく。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	・これから涼しくなるため、地物の大型野菜が増え単価が下落すると考えている。また、寒くなると鍋物が多くなり、野菜の種類も増えていく。年末や正月に向け売行きが変わってくると予想される。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから年末にかけて、お歳暮や正月の花などの注文が増加していく。
	○	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・これからの数か月は日本茶がおいしい季節となり、通常よりも若干価格が高い商品を購入する客が多くなるため、売上は増加傾向になる。しかし、固定の客は高齢となっており、徐々に来店も減少している。
	○	百貨店（経理担当）	・来客数が増加傾向にあり、今後も美術・宝飾・時計等の高額商材の需要が見込まれるため、売上も増加傾向になると想定している。
	○	コンビニ（経営者）	・客の動きが活発となっており、高級感のある新商品も比較的好意的に受け止められ好調であるため、今後も期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当・店長）	・気温が下がった途端、夕方から夜にかけての来客数が若干減少していたが、年末に向け、寒さに慣れたこともあってか、来客数が前年並みに回復している。
	○	家電量販店（従業員）	・寒くなっており、徐々に暖房器具の需要が増える。
	○	乗用車販売店（従業員）	・所得税減税によって少しでも景気が良くなることに期待をしている。
	○	乗用車販売店（総務担当）	・当面は現状同様、新車の配給が増加する。販売店では売上が確保できるため、好調な状態が続くと予想される。
	○	乗用車販売店（役員）	・引き続き、話題性のある新商品発売が控えており、受注や販売を好調のまま維持できると判断している。
	○	乗用車販売店（役員）	・メーカーの生産や供給が順調であるため、販売台数が高水準を維持することが期待できる。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・年末商戦となり、お歳暮や進物としての需要が多くなる。新規の客も増加傾向にあり、今後の売上は伸びていく。気候も急激に寒くなったため、客は、夏の飲料から早めに冬物商材へ切り替えている。
	○	高級レストラン（経営者）	・物価は高騰しているが、飲食店であるためインバウンドや忘年会、新年会が続き、忙しくなっていく。
	○	高級レストラン（経営者）	・忘年会シーズンに向かい、予約状況を見る限り忙しくなるが、好調になるとは考えられない。例年と比較すると余り景気は良くはなく、今月より若干上向く程度である。
	○	観光型ホテル（総務）	・例年の傾向として、年末にかけて需要が高まると予想している。
	○	通信会社（社員）	・販売手数料の増加によって必然的に売上は増加する。
○	通信会社（営業担当）	・インバウンドが増加しており、その影響が出始めると予想されるため、景気は良くなっていく。	
○	観光名所（従業員）	・紅葉シーズンになるため、多くの客の来店を期待している。	
○	観光名所（職員）	・各業態への聞き取りで悪い情報は入っていないため、景気は良くなっていく。	
○	ゴルフ場（従業員）	・これまでは地元中心の客層であったが、国内外の予約が徐々に増えている。しばらくは、この状況で推移すると考えられる。	
○	ゴルフ場（営業）	・個人客が増えていることに加え企業のコンペも多数組まれており、参加者も増加している。ただし、コロナ禍の自粛による反動である可能性もあるため、しばらくは状況判断が必要である。	

<input type="radio"/>	競馬場（職員）	・販売量の動きが底堅く推移しており、増加する兆しもみられる。
<input type="radio"/>	美容室（経営者）	・2～3か月前と比較すると徐々に良くなっているため、年末になると売上は上向いてくる。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・政府の経済対策等が具体化するため、現状より状況が若干良くなると考えられる。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・商店街としては、年末商戦に向け会議を行い、今後の対策を講じ前向きに動いていくことが重要である。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・景況が好転する材料が見当たらない。低所得者向け給付金は一時的な経済対策で終わりそうであるが、プレミアム付商品券は小売店にとって販売促進の効果がある。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・年末商戦がどのような状況になるかわからないが、魚の入荷数や注文数が懸念されるため、利益を出すためには年末に力を入れなければいけない。今からフグの季節になるため、消費者が購買意欲を取り戻すことに期待している。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・年末年始は旅行や帰省客でにぎわうと予想しているが、年明けの来客数は、落ち着くと考えられる。
<input type="checkbox"/>	百貨店（業務担当）	・新型コロナウイルス感染症発生前にはよく買物をしていたという客でも、コロナ禍の4年間を経て、商品を購入する習慣がかなり薄れている。購入意欲が減少しているため、現状の購入状況が普通になっており、この状態が大きく変わることは考えにくい。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経営企画担当）	・物価高の影響が徐々に現れてきており、催事等の売上が計画を下回ることがある。年末年始を迎え、1年のなかでも繁忙期となるため、消費者の出費の選択が更に厳しくなると予想される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・政府の物価高騰対策によってある程度は還元されるが、それ以上の物価高騰が懸念される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（総務担当）	・食品価格の値上げに対して所得の上昇が足りないため、消費者の財布のひもは非常に固くなっている。また、金利も上昇しており、インフレに備えてますます買い控えが進むと予想される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・今後2～3か月先も気温が平年を上回るという予報であり、冬物商材の売行きが懸念される。一方、物価高による単価上昇の継続から、売上は現状とほぼ変わらず推移する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	・来客数が戻っており、徐々に寒くなってくると秋冬商材の動きも良くなる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・景気上昇のためには人の移動が現状よりも活性化する好材料が必要であるが、特段、現段階では見当たらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・コロナ禍のテレワークが定着化したため、事業所の出社は新型コロナウイルス感染症発生前に戻っていない。インバウンドによる来客数増加により、販売の減少を補っているのが現状である。来客数や買上点数を増やす売出しで対応している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・10月からの最低賃金の引上げにより、消費行動がポジティブに動くことを期待している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・政情が不安であり、景気への影響が心配である。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・景気は余り変わらずに、この状況が続く。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	・物流の2024年問題や政治の動向など、今まで見送られていた問題が一気に吹き出しており、少子化対策や年金問題、経済対策などがかみ合っていない状況である。賃金の引上げを行っている企業もあるが、景気が上昇しているとはいえないため、厳しい年を迎えることになると予想している。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・現状、良くなる要素は余りないと考えている。物価高の影響が強く、しばらくは横ばいが続く。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（代表）	・現状のままでは、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	・今月は旅行が重なり、交通機関や観光地では人出が多く、景気は回復しているようにみえる。しかし、置き家具業界はどこも不況で、売上が落ちている。石油の高値や仕入れの値上がりで経営が厳しくなっている。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・世界情勢などを要因とする物価の上昇に伴い、消費の冷え込みが懸念される。年内の著しい景気回復は難しく、今後も現状が続く。

□	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	・商品値上げも売上増加の要因になっている。
□	スナック (経営者)	・今月に入り会社員の来店数が落ちている。深夜来店も無くなり、近隣の飲食店も閉店が早い。燃料代や諸物価の上昇が外食頻度の低下を招いており、物価の上昇に給与の上昇が追いついていないと考えられる。
□	観光型ホテル (専務)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いたことで、感染症発生前の状態に戻りつつある。年末年始は、久しぶりに集まる親戚グループの予約が多く入っている。
□	観光型ホテル (支配人)	・10月以降も前年と同様に予約や売上が良い状況である。しかし、9月で終了した全国旅行支援の影響や11月からの値上げで、個人利用客の予約が鈍化しており、売上は前年並みを見込んでいる。
□	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症発生前に景気が戻ったとしても、減車や離職によって需要に供給が間に合わなくなっている。
□	通信会社 (企画担当)	・新規引き合いは通常と変わらないため、見込みは横ばいである。
□	通信会社 (役員)	・ここ数年、賃金が変わらない状況であるにもかかわらず生活必需品の値上げが続いており、景況感が好転する要因が見当たらない。
□	通信会社 (企画担当)	・光回線の販売件数について、増減するような要因がみられない。
□	理容室 (経営者)	・固定の客が多いため来客の変動に極端な動きはないが、12月に近づくと、正月前ということもあり景気が良くなる可能性がある。
□	美容室 (店長)	・美容室が軒並み増加し、固定客が頼りである。人件費は増加し、利用回数は減少しているため、景気が良くなるとは考えられない。
□	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	・当面は病院の患者確保の方針は変わらず、その結果、利用者確保に苦慮することが想定される。
□	設計事務所 (所長)	・3か月先の景気は現状と変わらない。
□	住宅販売会社 (従業員)	・物価高や原油価格高騰、円安、政府の経済対策の失敗などがあり、一般的な政策として賃上げがあるものの企業によって格差があるため、景気は変わらない。
□	住宅販売会社 (従業員)	・住宅ローンの金利がやや上昇傾向にあり、これが今後も続くようであれば、検討中の客は建築時期を前倒して動く予想される。
▲	商店街 (代表者)	・物価高の情報が入り乱れ、また、消費税の問題もあり経済が安定しておらず、同じ状況が継続しにくい。
▲	商店街 (代表者)	・食品等の生活必需品値上がりの影響でし好品等が買い控えとなり、小規模の小売業者は一段と厳しくなる。また、大企業が集まる都市圏と地方の賃金の格差が広がるのが考えられ、今後5年で小売業者数の減少が予想される。
▲	百貨店 (総務担当)	・物価高の継続により、消費の落ち込みが予想される。
▲	百貨店 (企画担当)	・世界情勢の急速な不安定化や国内政治、経済の状態など、明るい材料よりも暗い材料が多いため、景気は若干悪くなる。
▲	百貨店 (営業担当)	・堅調な紳士雑貨やスポーツ関連、し好性の高いブランド品・舶来雑貨は依然として購入意欲が高い。価格上昇による来客数や販売量減少の懸念はあるが、クレジット利用を含め客単価や商品単価の伸びが見込める。おせちの予約が始まった会場やオンラインは共に好調で、各種の催事や特別招待、友の会に加えてお歳暮商戦が開始することで、来店意欲の増進と催事場から各階売場への回遊が期待できる。また、国内外の観光回復や年末商戦の開始で周辺商店街のにぎわいも見込める。
▲	百貨店 (営業企画担当)	・今後も世界情勢や国内政治不信による消費意欲の低下が続く。一方、新型コロナウイルス感染症による行動制限解除後の初めての年末年始になるため、人流の活発化に期待している。

	▲	スーパー（店長）	・物価の上昇と現在の収入が見合っていないと考える人が多く、消費は2～3か月先も伸びないと推測される。縮小均衡となれば、景気向上は望めない。
	▲	コンビニ（経営者）	・物価高騰が止まれば状況は変化してくると予想されるが、なかなか期待できない。購買客数の増加につなげるため、客が手軽に購入できる品ぞろえを実施していく。
	▲	家電量販店（店長）	・物価高が落ち着かず、また、スーパーエルニーニョ現象の発生懸念など異常気象の報道もあり、実際に気温も高い状態が続いているため、季節商材の伸び悩みが予測され、より厳しい状況になる。
	▲	家電量販店（店員）	・食料品の価格が上昇しているため、家電商品の買い控えが多くなり、売行きが良くない状況が続いている。しばらくはこの状況が続くと考えられる。
	▲	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・世界情勢の影響もあるが、原価高騰は継続し、更なる価格高騰が予想される。加えて、金利が上がってくると、個人所得への還元ができず、景気は悪化すると予想している。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・10～11月の繁忙期と比べると、日帰り団体旅行や全国旅行支援などによる団体客の需要が減少する見込みである。
	▲	タクシー運転手	・不安定な世界情勢となり、賃金の上昇よりも物価の上昇が上回る傾向が今後も続く、現状の景気を維持することは難しい。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・ウクライナ情勢やイスラエル情勢、円安による燃料の価格高騰の不安は払拭できず、好転する気配はない。
	▲	設計事務所（所長）	・建築関係では、材料や製品の単価の上昇が今後も続きそうである。また、年末に差し掛かり時期的な価格上昇も始まるが、やはり仕事への対価は上がらない。特に、人件費が増加しづらい地方のサービス業は厳しい状況になると予想している。
	▲	設計事務所（代表）	・今後も物価上昇が予想される。
	▲	住宅販売会社（代表）	・住宅購入に関し、補助金などのメリットがある場合は販売促進の材料とできるが、補助金が出ない場合は更に景気は悪くなっていく。住宅購入における消費税の金額は大きい上に、物価高騰により一層景気が悪くなっていく。
	×	一般レストラン（スタッフ）	・インボイス制度や消費税の引上げ、円安、物価高騰などの影響で景気は悪くなる。
企業 動向 関連	◎	農林水産業（従業者）	・今後、九州地域が早く冬春の野菜を出荷できれば、高値の恩恵を得られる可能性がある。しかし、来週後半には全国的に出荷がそろることから、価格は安定していく。
(九州)	○	一般機械器具製造業（経営者）	・当社の受注や生産はその発注の内容によって相手の業界が分かる。恐らく、現在は自動車業界が主幹ではなく、通信機関係の需要が多くなっていることが考えられる。今後はその方面が伸びることが予想され、また、半導体の体制も整うため、自動車関係も徐々に上向いてくることを期待している。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・車載関連の半導体は底堅い状態である。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の見込み情報から判断すると、景気は若干回復してくる。
	○	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・計画した生産量に比べ、若干であるが上振れ傾向が続く。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・年内までは受注確保できているが、来年の受注は未定である。中国のレアメタル問題などで材料価格が見通せないため懸念している。
	○	建設業（従業員）	・大型物件の入札が11月頃にあるため、その受注に向けて入札金額を正確にはじき出し、景気回復に尽くしたい。
	○	建設業（社員）	・第3四半期はまだ工事の発注があるが、第4四半期にはほとんどないため、年内の受注を目指している。早めの大型補正予算決定に期待しており、景気回復することを望んでいる。
	○	金融業（営業）	・政府の物価高対策や企業の賃上げ、各種取引の値上げなどが進展していく。景気に格差が生じ、景気が落ち込む下請企業もあると考えられるが、全体としてはプラス要因となる。
	○	金融業（営業担当）	・気候が急に冷え込み、天候も安定していることで人や消費の動きが見られる。これから年末には気候も良く、各業種の売上は期待できる。しかし、10月から物価が上昇し、加えて、人件費等も上昇しているため、利益確保が今後の鍵になる。

○	不動産業（経営者）	・受注状況などに鑑みると、少しずつ回復していく。
□	農林水産業（経営者）	・原料不足や人手不足、賃金の上昇、資材高騰など経営を圧迫する要因は多い。企業内の努力だけでは今後カバーできない。加えて、鳥インフルエンザの季節でもあり不安要素は多い。しかし、販売が好調であることに加え11～12月は需要が最も増える時期であるため、追い風になっていくと予想される。
□	家具製造業（従業員）	・年度末に向け、案件情報は増えている。しかし、資材や燃料等の高騰は高止まりのままで、決して楽観できない状況が続いている。
□	化学工業（総務担当）	・今年度の損益はほぼ前年度並みで推移する予想であり、年間通じて状況に余り変化はないと見込んでいる。
□	金属製品製造業（事業統括）	・年末にかけて需要は旺盛になると予想されるが、人手不足もあり現状が維持される程度ではないかと考えている。
□	一般機械器具製造業（経営者）	・客との会話では、当面半導体製造装置関連で減産が続く状況である。
□	電気機械器具製造業（経営者）	・この先3か月も受注が好転する兆しがない。
□	輸送業（従業員）	・中国の景気低迷や物価高騰で当面回復が見込めない。また、観光は回復しつつあるが、飲食はまだ新型コロナウイルス感染症発生前には戻らないため、輸入食材などの企業では厳しい状況が続く。
□	通信業（職員）	・民間企業が施主の営業案件数は多少伸びているものの、官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、今年度の受注目標に対して厳しい状況となっている。
□	通信業（経理担当）	・第2四半期の売上や利益の前年比が共に減少傾向となっており、今後もこの状況が続く。
□	金融業（従業員）	・自動車や住宅の販売が回復しているほか、百貨店やスーパーマーケットの売上も増加傾向にある。また、公共工事は高水準で推移しており、飲食店及び旅行業者等の売上も増加している。一方、原材料の値上げに加え人手不足などの影響で、一部の企業では経営状況が厳しくなっている。
□	金融業（調査担当）	・年末に向けて個人消費が活気付くことに期待する向きもあるが、終わりの見えない物価高が景気浮揚の重しとなり、当面は現状程度の推移が続くと考えられる。
□	新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が少ないため、景気に変化はない。
□	広告代理店（従業員）	・コロナ禍の状況から回復が進んできている。世界を見回すとロシアによるウクライナ侵襲や、不動産業界に端を発した中国経済の不安定化、イスラエルとガザの紛争と、景気に悪影響が出そうな材料が多く、景気は足踏み状態が続く。
□	経営コンサルタント（代表取締役）	・Webのアクセス数や問合せ件数に変化がないため、売上は変わらない。
□	経営コンサルタント（代表取締役）	・今年の前半は好調な動きであったが、現在は穏やかな動きになっている。今後の経済的な動きは若干鈍っていく。
□	経営コンサルタント（社員）	・値上げがまだ進んでいるため節約志向が進んでおり、消費者は1円でも安いところを探している。
□	経営コンサルタント（社員）	・新規開拓について検討中であるが、まだ結論が出ていないため現状が続く。
□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・業種によってはインバウンド需要などプラスの要因はあるものの、物価の上昇や人手不足などマイナスの要因も多数あり、価格転嫁と賃上げなどの上昇要因が改善されなければ現状が続いていく。
□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村の子育てに関するアンケート調査は12月くらいをめどに発注されるため、受注する機会が増え、景気の良い状態が続くと予想される。しかし、受注する側には、請け負える限度があるため、一定の金額で受注を控えざるを得ない。そのため、受注金額の伸びの鈍化が予想される。
▲	繊維工業（営業担当）	・工賃などの対応が十分でないところが多いと予想される。また、インボイス制度などの対応も変化をもたらしており、今後の景気が危惧される。
▲	輸送業（総務担当）	・世界情勢が不安定であり、今後もエネルギー高騰、輸出入量の低下で景気にとってマイナス要素が多い。政府の経済対策が結果として表れるか、今後注視したい。年末商戦で荷動きが多くなる予想ではあるが、暖冬の予報もあり、冬物商材の売行きに不安が残る。

	▲	金融業（調査担当）	・為替相場が月末には1ドル150円台と1年ぶりの安値圏まで進み、前月より円安傾向が高まっている。今後、過度に変動が生じることがあれば、景気はやや悪くなると予測している。
	×	—	—
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・年末年始に向け、宴会やイベントは増加していくと予想している。
	○	人材派遣会社（社員）	・中小企業の求人でも高額時給の求人が増加傾向となっている。加えて、年末商戦の需要が前年以上に動き始めている。
	○	人材派遣会社（社員）	・年末年始になり、短期注文が増える時期である。また、現在では観光客も多く見掛けるが、冬休みになると更に多くの観光客が見込めるため、接客業での注文が若干増えている。
	○	新聞社〔求人広告〕（社員）	・年末年始という時季的な要因により、景気は若干良くなる。
	○	学校〔大学〕（就職支援業務）	・インバウンドが新型コロナウイルス感染症発生前の水準に近づくなど経済活動の正常化を背景として、内需を中心に日本経済は緩やかに持ち直している。このため、一部の業界では働き手の人材不足もあり、企業の新卒採用意欲は底堅い。今後もしばらくはこの状況が続くのではないかと予想している。
	□	人材派遣会社（社員）	・派遣登録者の希望職種は事務職が多いが、サービス業や医療関係などの求人職種とマッチしないことも多く、就業開始に至らないケースが多い。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・9～10月の求人数が期待に反していたため、2～3か月後の動きに期待ができない。例年1月以降は求人数が活発になるが、今の段階では予想が付かない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・インバウンドやイベントなどへの人出は好調に推移していくと予想される。一方、物価高や円安などの影響もあり、消費や製造業などでは厳しい状況になることも予想される。しかし、全体としては現状と大きくは変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・就職件数や充足数が伸びておらず、引き続き人手不足状態が続いている。また、事業所の仕事量は変わらないため、今後の景気は変わらないと判断している。
	□	職業安定所（職員）	・ガソリン補助金の期間延長や年末のイベント需要など明るい話題もあるが、冬季の鳥インフルエンザへの懸念や中東情勢の影響など不確定な状況もあり、当面は現況が続くと考えられる。
	□	民間職業紹介機関（職員）	・人材不足もあり、新卒の就職市場は学生有利の状態が続いているため、学生はかなり楽観視している。企業側では、採用予算の削減という情報はあがるが、採用なしということはほとんどないため、当面良い状態が続く。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・今後も物価上昇が続く懸念はあるが、当市においてはインバウンドの増加が顕著である。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・生鮮食品や野菜等食料品など生活必需品の値上げで生活が苦しくなっており、景気はかなりマイナスに働いている。
	▲	職業安定所（職員）	・求人数は前年比で増加しているが、求職者数は減少が続いている。人手不足感が強まっているが、人材確保ができずに仕事を断ったり、業務縮小を検討している企業もあり、今後の見通しが立っていない。
	×	—	—